



1. はじめに

私の故郷、湯布院は日本の観光地の中でも有名な観光地です。毎年、ゴールデンウィークや夏休みといった連休シーズンになると、日本全国からだけではなく、世界各地から多くの観光客が湯布院を訪れます。

しかし、合併騒動や不況のせいか、湯布院に活気がなくなりつつあるように感じます。また、熊本の黒川温泉が注目をあびるようになり、観光客の数が年々減りつつあるのです。

そこで私は、土木家として、また、地元住民として湯布院という町を変えたい、『新しい湯布院を創りたい』と思いました。

2. 湯布院の現状

湯布院は古来より『奥別府』と呼ばれ、温泉地として親しまれてきました。今となっては、別府より集客力のある観光地にまで発展したのです。観光要素のひとつとして、地ビールを作るようになり、ついに、湯布院ワイナリーもできました。最近では、テレビの取材や、湯布院を舞台にした朝の連続テレビドラマ『風のハルカ』も放送されました。しかし、観光地としての都市整備を急ぎ、無謀とも呼べる『計画性や将来性のない』都市計画と観光店の店舗のせいで、交通渋滞や観光街の環境の悪化といった現象がおきているのが現状です。これは、観光客だけではなく地域住民に対しても悪影響を及ぼしています。

具体的な例を挙げると、

- ◆ 町の中心部や観光街における道路幅員の狭さによる交通渋滞
- ◆ 歩道の狭さによる観光客・住民の移動のしにくさ
- ◆ 無秩序店舗による周辺環境の悪化
- ◆ 観光客だけではなく地域住民によるごみの不法投棄
- ◆ 観光店店舗と一般住宅の混設

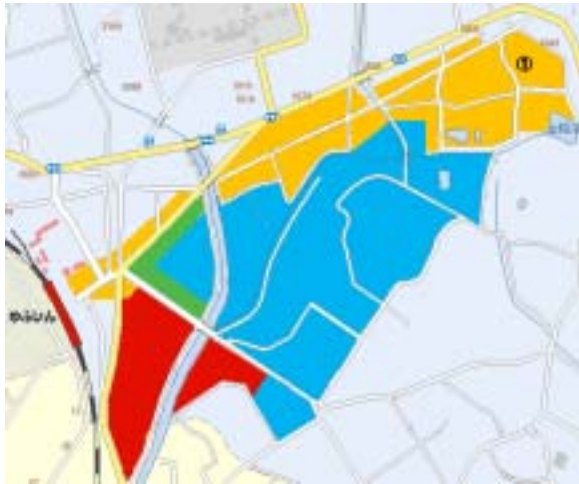
といった、様々な問題があります。

また、上記の問題による、住民の住みにくさによる過疎化、観光客のリピーター率の低下といった二次的な問題の発生がおこっています。これは、単に観光地としての問題だけではありません。つつあるのです。

そこで私は、どのようにしたら観光地と住宅地の両立ができるかを考えました。

3. 提案内容と効果

[1] 用地分け



〔 図 1 〕

まず私は、各用地を考え、分けることからはじめました。そこで、駅から放射線状に用地を配置しました。

黄：観光用地、観光店舗地

赤：旅館等・宿泊施設地

青：一般住宅用地

緑：観光客・地元住民共用地

この案の最大の利点は、指定エリアをつくることで、都市整備が行いやすくなることです。その地域がどのような用地なのかがわかれば、道路幅や歩道の幅、街灯の形や樹木の種類などが決めやす

いからです。また、エリア一つ一つにあえて違う樹木や街灯を設置するなど、その地域にメリハリや特色をだす工夫をするのも良い案のひとつだと考えました。

1) 観光用地・観光店舗地

図の1のように、駅から『金鱗湖』までのルート間に観光店舗等を建ち並べます。すると、観光客の移動ルートがほぼ直線になり、観光がしやすくなります。また、ひとつの案として、 の位置に駐車場をつくるのはどうでしょう。駐車場からは、現在運用している『辻馬車』や『乗り合いタクシー』などを利用します。すると、駅～駐車場間を通る一般自動車が少ないとなり、駅周辺や観光街の交通渋滞が緩和されるのです。さらに の場所は、



右は別府へ、左は日田・湯布院ICに通じる道に隣接しているので多くの利用者が見込まれます。

2) 旅館等・宿泊施設

駅を出て右側に旅館等・宿泊施設地をもうけました。この案は、今まで街中に点々と建っていた旅館等をひとまとめにするためです。旅館や宿泊施設はどうしても建物が高くなってしまい、周りの景色をさえぎり、ときには建物自体が目立ってしまいます。旅館等をひと地域にまとめることで、『由布岳』や周辺の自然の景色がどこからでも見えるようになります。また、湯布院には条例で通常の建物にも高さ制限があるので、二重の効果が見られると思います。

3) 観光客・地元住民共用地

共用地とは、地域住民用の施設や店舗を観光客も利用できるようにする用地のことです。現在、湯布院の街中にも商店街はありますが、観光街から離れていることもあり、人通りも多くありません。またほかにも、温泉施設等があるのですが、こちらも離れているので利用者は多くありません。しかしなかには、テレビや雑誌で紹介されているお店や施設もあります。そこで、そういったお店を中心とした地元商店・施設を、新しい観光街のひとつとして組み込んでしまおうというのが目的です。温泉施設等は旅館側、一般店舗は観光街側というふうになれば、観光客からの利用も期待できます。

4) 一般住宅用地

私は今回、一般住宅用地をおもいきって、観光街の隣にもうけました。観光街の近くに住宅地をつくと、騒音がうるさいなど様々な問題がありますが、それ以上に、もっと地元の人々に湯布院の魅力を知ってほしいからです。地元住民の多くが、「近いからいつでも行ける」、「たまに行っても面白くない」といった理由で、観光街に行きません。私は、そういった考えをなくし、観光客だけではなく地元住民も楽しめるようにしたいと思い、あえて住宅地を観光街の近くにもうけました。さらに、共用地を間に挟むことで、「買い物ついでに…」といった感じで遊びに行けるようにしました。

[2]無秩序店舗の撤去

無秩序店舗とは、外観や売っている商品が汚い、粗悪店、場に合わないなど周辺環境や秩序を乱す店舗のことです。こういった店舗は湯布院の中にいくつかあり、目立ちやすく、湯布院のイメージダウンになっています。そこであらかじめ、条例や店舗を出店する際のきまりに規則や罰則をつくっておき、無秩序店舗の建設や増加を防ぎます。また、現在すでに建っている店舗に関しては、警告等を行い、改善猶予期間を与えます。しかしそれでも、改善等が見られない場合は、営業停止、強制退去等、



厳しい罰則を与えるようにします。

[3]ごみの不法投棄の取り締まり

図のように、湯布院の中に設置している多くのゴミ箱がごみでいっぱいになっています。しかし、このようなごみは観光客だけではなく地元住民によるごみであることが大半を占めているのです。この問題については効果的な解決案はなく、困っているのが現状です。地道に地元住民に対して呼びかけをし、ゴミ箱のごみを回収してまわるしかありません。そこで私は、買い物袋を湯布院内の観光店舗以外のすべての店舗からなくす、または、買い物袋を有料制にすることを提案します。前案は厳しく感じますが、後案はすでに原案がありニュースでも取り上げられているので比較的スムーズに実行に移せると思います。有料制にすることで、多少ではありますがごみを少なくすることが出来、また地球環境にもやさしくエコロジーです。



4. おわりに

今回私は『観光地と住宅地の両立』を目標に都市計画の案を提案しました。観光地湯布院として、観光客に充実した観光ができ、やすらぐことができるように。地元湯布院として、地元の人々が楽しく過ごすことができ、湯布院に住んでよかったと自慢でき、また誇りに思えるようにこの案を考えました。今回私が考えた案が少しでも湯布院のために役立つことができれば幸いです。